

## 令和3年度 第1回草津市環境審議会 会議録（概要）

### ■日時：

令和3年8月6日（金）14時00分～16時00分

### ■場所：

草津市役所2階 特大会議室

### ■出席委員：

小林 圭介委員（会長）、小笠原 好彦委員、壽崎 かすみ委員、樋口 能士委員、山川 正信委員、横田 岳人委員、磯貝 佳則委員、久保木 毅委員、北脇 芳和委員、中村 宏次委員、森 毅委員、太田 一郎委員、堀井 喜一委員、松村 幸子委員、山元 孝子委員、中島 有希子委員

### ■欠席委員：

山田 淳委員（副会長）、西村 洋委員、中川 智委員、杉江 香代子委員

### ■事務局：

環境経済部	寺田部長、高岡副部長
環境政策課	藤野課長、松尾係長、福永主査、関主査
くさつエコスタイルプラザ	永原館長、結城係長、津田副係長
資源循環推進課	柴田課長、黒澤係長
農林水産課	舟木課長
都市計画課	疋田主事
公園緑地課	三田村係長
上下水道施設課	守岡副係長

### ■傍聴者：

なし

### ■議題等：

1. 第2次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について（報告）
2. 第3次草津市環境基本計画の取組について（報告）
3. 宣言・実行計画（区域施策編）の概要等について（報告）
  - ・気候非常事態宣言・ゼロカーボンシティ宣言
  - ・草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

## 1. 開会 挨拶

---

### 【寺田部長】

本日は、令和2年度で計画期間が終了した第二次草津市環境基本計画の進捗状況の確認、本年度より計画期間が開始した第三次草津市基本計画の取組、および気候非常事態宣言・ゼロカーボンシティ宣言と昨年度策定した地球温暖化対策実行計画の区域施策編の概要等についてご報告をいただきます。

委員の皆様におかれましては、慎重かつ活発なご審議をお願いいたします。

## 2. 議事概要

---

### (1) 第2次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について（報告）

#### 【事務局】

<資料①～③について説明>

#### 【委員】

資料③、5頁、No.50のごみの資源化処理について、資源化量が前年比で増加しているが、総ごみ量も増加しているのではないかと。総ごみ量に対するリサイクル率はどうだったのか。何ををもってリサイクルできたと評価しているのか。リサイクル業者に引き取られたものがその後どうなるかという追跡もお願いしたい。

#### 【事務局】

リサイクル率は18.7%であり、リサイクル率は業者に引き渡した量をもとに算出しており、リサイクル業者に引き渡したものは、最終形まで把握できているわけではないが、適正に処理されていると考えている。

#### 【委員】

ペットボトル等を引き取ってもらう際、ラベルが剥がしてあるかどうかや、汚れ具合など、質を評価されていると聞いたことがあるが、草津市はどの程度の評価を受けているのか。

#### 【事務局】

草津市においては、ペットボトルの引き渡し先である容リ協会において、最高ランクの評価をいただいているという状況である。

#### 【委員】

資料③、9頁、No.97の野路公園整備事業について、公園整備の状況はどのようになっているのか。また、昨年度実績として予算額、執行額ともに0円とあるが、実際何も進んでいないのか。

#### 【事務局】

整備状況については、野路公園2.4ヘクタールのうちの道路を挟んで北側の第1工区の事業化を行い、整備を進めている。予算額については0円だが、地権者と協議を進めて

いる状況で、同意が取れ次第、予算をつけて事業を進めていく。

**【委員】**

資料③、3頁、No. 37のまめバスだが、事業拡大でまめバス利用者の記載はあるが、収支バランス的にはどうなのか。また、まめタクについては、運行便101便で、利用者119人という数から、ほぼ一人で一台乗っている状況に近く、自家用車を手放しても移動できるという点で意味はあると思うが、CO<sub>2</sub>排出量という観点ではどのように評価しているのか。

**【事務局】**

まめバスはコミュニティバスであり、民間バスとして成り立たない路線を走らせているため、赤字となり、その赤字部分を市から補助金として補填させていただいている。

まめタクは、昨年度から実証実験で、志津学区で運行を開始しており、今後聞き取りやアンケート等でルートや停留所を見直しながら、本格運行に持っていかどうかを検討していくことになる。

**【委員】**

今後ゼロカーボンに向け、まめバスの電気自動車化の考えはないのか。

**【事務局】**

いまのまめバスをすぐに電気自動車にすることは厳しいと思うが、現在、ゼロカーボンに向けた施策を全庁的に検討しているところである。

**【委員】**

各事業の開催方法として、コロナの影響で対面に代わるウェブやリモートなどへの転換はあったのか。

**【事務局】**

例年実施しているこども環境会議の対面開催はできなかったが、壁新聞の展示で啓発を図った。また、企業向けのエコフォーラムは対面開催にかわり、ウェブセミナーを実施した。

**【委員】**

資料②、1-2でこども環境会議の実績がゼロになっているのは、壁新聞の展示を行い、それを見聞きした団体がゼロなのか、壁新聞をカウントしていないからゼロなのか、教えてほしい。

**【事務局】**

今回はこども環境会議を開催できなかったもので、参加団体数がゼロになっている。

**【委員】**

何をもって実績をカウントしていくかは、今後検討願いたい。

**【委員】**

コロナ禍は突発的であり、その対応を反映できていないことは仕方ないが、コロナの状況を受けて工夫した施策については書いた方がいい。SDGsに関して毎年発表される国

連レポートでは、近年コロナ禍での対応状況を評価されていることを参考にされるとよいと思う。

**【委員】**

非常に多くの部署、地域の皆様が活動に参加されている。この活動の成果をしっかりと広報していただき、多くの方が自らの動機付けにつなげてもらえればありがたい。

**【委員】**

本日配布された修正後の資料③で「新規（既存）」から「継続」に変わっているのは、既存イコール継続と判断したためなのか。

**【事務局】**

修正箇所は、各課照会結果の記載内容であり、詳しく聞き取りしたところ、「継続」事業だということが判明し修正を行った。

**【委員】**

赤野井湾のハスが全滅し、私も調査に行ったことがある。色々な所にハスを移植されていると思うが、常盤学区の取組など、各所での成功例を参考にし、赤野井湾での再生について検討いただきたい。

**【事務局】**

赤野井湾のハスがすぐにもとに戻ることは難しいと思うが、努力していきたいと考えている。

**【委員】**

道路沿いや田にごみが多く落ちていたので、回収していただきたい。守山辺りでは、軽トラに乗って道路沿いのごみを回収しているが、草津はそういうことはできないのか。

琵琶湖でごみを拾っていると、ポリ袋や弁当のごみがたくさん流れてくる。カラス等によるごみの散乱も何とかしたいと思う。

**【事務局】**

草津市では市職員 2 名体制で 1 回 2 時間程度、定期的にパトロールを実施している。ごみ出しルールの周知啓発も実施し、適正な排出を促すよう努めている。

**【委員】**

改めて多くの環境に対する取組を市の各部署や、団体等が行っていると認識できた。近年、地球温暖化や低炭素社会への転換というテーマが話題になっており、そういう取組の情報があれば、私が所属する団体の広報誌等で紹介して活動を広げていくなど、協力していきたい。

**【委員】**

資料②、2-1 の 75%（地球温暖化対策に取り組む市民の割合）、2-2 の 100 者（愛する地球のために約束する協定者数）という目標は実績に対して高すぎるのではないか。また、資料②、5-1 の環境管理基準 BOD の達成状況について、平成 30 年から急に実績値が下がっているが、原因は判明しているのか。

**【事務局】**

次の第三次計画では、資料②、2-1の目標75%は、令和8年度に50.3%に、2-2の目標100者は同じく80者に見直しをしている。

**【事務局】**

超過が見られる狼川沿線の事業所について、重点的に排水調査等を実施しているが、規制基準を超過する事業所は確認されていない。草津市では独自に河川水質の環境管理基準を定めており、AからEの5段階の種類の、B類型を達成しようという目標を立てて進捗管理している。毎月の調査の結果は、B類型の値付近を上下しており、12回の調査で、6回が超過したという状況である。季節や水量等、何と関係があるのかということの評価し、原因究明していく必要があると考えている。

**【委員】**

資料①で、低炭素社会への転換とあるが、最近では脱炭素社会への転換という表現が使われることが多くなってきている。今後はどのように表現される方向なのかお伺いしたい。

**【事務局】**

以前は低炭素社会という言葉が多く使われていたが、国も世界全体的にも脱炭素社会に舵を切っている。第4次草津市地球冷やしたいプロジェクトの策定においても議論となったが、脱炭素社会を最終目標、その社会の実現を目標として、まずは低炭素社会への転換を図るということで、あえて低炭素社会という言葉を残している。

**【委員】**

資料②、4-1の多種多様な生物が生息する空間が増えることに関して、今後の課題等のところで、自然環境保全地区や保護樹木に関する表現があるが、全体的な課題としては少し薄いと思う。

**【事務局】**

今後の課題はここに記載のとおりだが、市で指定している自然環境保全地区や保護樹木を新たに増やすというよりは、いまある自然の良好な保全に努めていくことが、方向性であると考えている。

**【委員】**

資料②、6-1について、ニューヨークにハイラインという公園があり、地下鉄の廃線を利用してすばらしい公園にすることにより、観光客もたくさん来て、経済効果があったということがあり、草津川跡地はとても可能性があると感じている。

**【事務局】**

市議会でもニューヨークのハイラインのコンセプトを参考にというご意見があり、担当課でも整備、活用を含めて参考にしている。整備した区域は活用、未整備の区域は整備を順次進めて、今後の取組につなげていきたい。

**【委員】**

資料③、7頁、No. 74のふれあい農業推進事業で、手作り市民農園を75区画開設して

とあり、今後のところで、空き区域が出ないよという表現があるが、現在は空いているのか。この事業は、今後増えていく高齢者に利用してもらうため、もっと拡大していく方向なのか。

**【事務局】**

市民農園の空き状況だが、現段階では 75 区画全て埋まっている。市民農園以外にも、JA で 160 区画の貸し農園をされているが、全てご利用いただいている状況である。

農地や貸し農園についても確保が難しく拡大にはつながっていないが、皆様に関心を持っていただけるよう PR に努めていきたい。

**【委員】**

資料③、9 頁、No. 100、No. 104、No. 105 で、交付金や補助金の実績がなし、状態としては継続と書いているが、本当に継続していく必要があるのかどうかお聞きしたい。

**【事務局】**

ご指摘いただいた補助金等については、実績がないものは、担当課で新たな取組を検討させていただいているところである。次年度の対応に向けて、改めてこのような意見があったことを担当課に伝えさせていただく。

**【委員】**

資料③、9 頁、No. 100 で、生垣設置の実績なしということだが、歩道にはみ出す植木が問題になっている場所がある。ブロック塀ではなく生垣を推進していく場合、管理方法も啓発してもらった方がよい。

また、まめバスで、市の方にはいろいろ動いていただいているが、地域の皆さんに乗ってもらえるよう、今後ともしっかり続けていただけるようお願いしたい。

**【事務局】**

生垣については、基本的に道路は市の管理になり、民地から出ている枝等は所有者に管理いただく必要があるが、ひどい状況であれば、市が適正に管理していただくよう促すこともある。

まめバスについては、実証実験で利用者が少ない結果となれば廃止もあり得るが、路線としての定着が必要で、一定期間継続をしないと乗る方は増えていかない。いまのご意見を踏まえ、担当課には伝える。

**【委員】**

地球温暖化については、何年も前から話題となっており、一人ひとりができることをやっていかなければいけない。そのためには個々に取り組む目安を分かりやすく示してもらえると良いと思う。

**【事務局】**

市民の皆様への働きかけについては、昨年度策定した第 4 次草津市冷やしたいプロジェクトを議題（3）で説明させていただく。

**【委員】**

昨年度から、コロナが大変深刻な状況で、今年度もまだ落ち着かない中、どうやって事業を継続していくか、県としても検討しているので、また一緒に考えていきたい。

**【事務局】**

市役所全体の中で従来どおりの事業で進めていくのが難しいという認識はしており、新しいコロナ禍での取組については、皆様と協力しながら進めていきたい。

(2) 第3次草津市環境基本計画の取組について（報告）

**【事務局】**

<資料④について説明>

**【委員】**

去年から話が出ているが、資料④、6頁の自然と共に生活する環境づくりについて、達成目標に、アライグマ等外来生物の捕獲数を挙げており、令和14年に140頭にまで増えるというのは設定として適切なのか。

**【会長】**

生物多様性保全の指標については昨年度も議論に挙げたが、生物多様性は意味が広いので、例えば一種類の数だけで評価していくことが、生物多様性保全につながるのかという問題もある。管理指標を複数設定することも検討中であるので、良い案があれば、また知らせてほしい。

**【委員】**

良好な景観に関して、草津本陣は草津市を代表する史跡だが、右から左へと道路を横断して垂れ下がる電線は、都市の景観を損ねている。国の史跡の本陣の通りなので、景観については何らかの方法で改善してもらいたい。

**【事務局】**

ご意見いただいた内容については、担当課に伝え、できる限り良好な環境、景観になるように努めさせていただきたい。

(3) 宣言・実行計画（区域施策編）の概要等について（報告）

**【事務局】**

<資料⑤～⑥について説明>

**【委員】**

排出量実質ゼロの聞こえはいい。実現できないことを目標として掲げない方がよいが、国の方針なので、どうやって実現させるかということが問題だと思う。

**【事務局】**

本当に脱炭素ができるのかは様々なところで議論があり、国が宣言をしているものの、計算上ゼロにするという画が描けている状況ではないと伺っている。市として、国や県と

違う数字を出すことは検討していないが、そのためにできることを着実にやりたい。現在、宣言文の内容やそれに基づく施策の展開を検討しているところである。

**【委員】**

人が生活で排出する二酸化炭素は自然で吸収できるように、森林を増やす目標値を設定し、その収支がとれた上で工業的に排出する、あるいは人が生活で排出する二酸化炭素は極力なくした上で、吸収源とのバランスが取れるような目標値を定められるのかどうか。

**【委員】**

事務局の発言にあったように、実現に向けて努力することが大事だと思う。また、草津市が過去から取り組んできた冷やしたいプロジェクト等の経緯もぜひ宣言文に書いてほしい。

**【委員】**

二酸化炭素をゼロにするということについて、誤解しない表現、説明があるし、環境教育も必要だと思う。ゼロという目標を掲げてやっていく必要があるので、宣言を出すことは大事で、賛成である。ゼロに向けてのプロセスを全部出す必要はないが、減らす手法や炭素吸収の考え方等も、宣言文とは別に解説をつけたりしていただけると良い。

**【委員】**

県としてもCO<sub>2</sub>ネットゼロは、全庁を挙げて取組を進めており、内容を検討しているところである。県民の皆様にも実行してもらわないと、現実と乖離したものになるので、事業者へのヒアリング等、様々な手法でアプローチしている。

**【委員】**

大きな目標を示しても、無理だと思われるという意味がない。コロナ禍で家庭ごみを減らしてと言われても限界があるのと同じである。家庭で増やせる吸収量は限られているので、吸収量を増やすために木を植える等、排出と吸収をセットにして書いてほしい。

授業で、芝生に水やりをしているシーンを学生に見せたときの反応が、「広い庭に芝生を植えるのは、環境上良くない。水の無駄遣いをしているから芝生など植えるべきではない」と、感想を書いた学生がいて、自然を大事にするという意味が置き去りにされていると感じた。コロナ禍で、ごみの削減や省エネを目標に掲げても、市民は動けない気がする。なので、少し工夫していただきたい。

**【委員】**

大企業はゼロカーボンに向けて放っておいてもやると思うが、中小企業は大変だと思う。工場からの排出量をどうゼロにできるかだと思うので、掛け声だけでなく、補助金を出す等すればよい。宣言することで、国の補助を受けられるならばよい。排出量をゼロにすることは難しいと思うが、国の方針で決まっているのなら、やり方はこれでよいのでは。



**【会長】**

宣言文には、国が定めるゼロカーボンシティの定義を入れた上で、先程事務局が言った内容を書き込んでいけばよい。

**【委員】**

江戸時代、江戸はエコ都市で、エネルギー循環がうまく行われ、100万人都市を維持してきたので、各都市で参考にすれば2050年頃には脱炭素社会が実現できるのではないかと思っている。ゼロカーボンシティは、例えば風力、水力、太陽光発電や植林、鉄道利用など、できることを積み上げて、プラスマイナスゼロにすればよい。滋賀県では、農産物が取れ、衣料・木材等も県内で調達できるため、地産地消をより推進していけばよいと思う。

### **3. 閉会 挨拶**

---

**【山川委員】**

昨年から今年にかけて、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で様々なイベント等を中止せざるをえなかったり、対面で実施できない場合が多かったと思います。単に実施回数、参加者数で評価するだけでなく、実践する市民の増加や市民意識の変化等を指標にすることで事業効果が見えてくるのではないかと思います。

今日はありがとうございました。